

## PIERIA 音楽イタリア語 基礎講座 ステップ2 第5課

### 5.1. 代名小詞 **ci(vi)**, **ne** の機能と形態

#### 5.1.1. **ci(vi)**の機能 ⇒ 原則として「a+アルファ」を受ける

- 1) 「～へ」と方向性を表す前置詞句を受ける。

Vai alla stazione? **Ci** vado anch'io.

(君は駅へ行くの？ 僕も行きます)

A Firenze **ci** sono tanti monumenti rinascimentali e **ci** lavorano parecchi restauratori.

(フィレンツェにはルネサンス期の名作がたくさんあり、そこでは多くの修復家が働いています)

\* 「a+アルファ」のみならず、「～へ」を表すその他の前置詞句でも、同じように **ci** を使うことができます。

Va in Italia? **Ci** andiamo anche noi.

(イタリアに行くんですか、私たちもそこに行くんです)

Vai dal dentista? . – No, non **ci** vado.

(君は歯医者へ行くの？) (いや、行かないよ)

- 2) **a** で始まる前置詞句を受ける。

この用法では、動詞や形容詞が前置詞 **a** を要求するということを知っておかなくてはなりません。

Lui riesce a distinguere le differenze delle esecuzioni, ma io non **ci** riesco.

(彼は演奏の違いが分かるが、私にはわからない)

\* この文の場合、ベースとして、**riuscire a ...** (～に成功する) があります。**ci** はこの文では **a distinguere** 以下を受けているわけです。

Maria compra un piano a coda. - Non **ci** credo!

(マリアはグランドピアノを買うんですって) (信じられません！)

\* この文の場合、ベースとして **credere a ...** (～を信じる) があります。

**ci** と **vi** は同義ですが、**vi** が用いられるのは、書き言葉や **ci** が2回続くとき、語

調が悪いときなどです。

(略)

### 練習問題 (5)

I 次のイタリア語文を日本語に訳すこと。

- 1) Questa cantante ha cantato finora quattro arie.
- 2) A Emanuele piace la bossa nova e ne parla sempre.

(略)

II 次の日本語をイタリア語に訳しなさい。

- 1) コンメディア・デッラルテ (Commedia dell'arte) はフランスのもの (francese) ですか。  
ーいいえ、違います。イタリアのです。
- 2) 君はスカラ座 (il teatro alla Scala) へ行ったことがあるかい？  
ーええ、3ヶ月前に行きました。蝶々夫人 (Madama Butterfly) を聴きました。

(略)

## 【コラム】音楽家(1)

今回は、イタリア音楽史上にその名を刻む音楽家をご紹介します。

まず中世の時代には、音楽家とは言えないかも知れませんが、グレゴリオ1世 **Gregorio I** とグイド・ダレッツォ **Guido d'Arezzo** の名前は憶えておきたいものです。後者は11世紀の修道士で、今の五線譜 **Pentagramma** の元になるものを考案したと言われている人物です。

作曲家として最初に名を残している大物は、14世紀アルス・ノヴァの時代にフィレンツェで活躍した盲目のオルガニスト、フランチェスコ・ランディーニ **Francesco Landini** です。15世紀に入ると、イタリアは長い低迷の時期を経験します。この時代、音楽家はフランドルからの輸入の時代を経験します。

(略)

Sample 10